

	公表	事業所における自己評価結果
--	----	---------------

事業所名	児童発達支援センターはぐはぐ子ども村西都			公表日	令和7年3月25日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		昨年定員を増やし部屋を広く使えるよう環境を整えた。園庭も広く自然にめ語られている。現状を維持していく。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		現状を維持していく。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	2	・玩具の入れ物、棚に写真を貼って片付けやすくしている。 ・着替えのカゴには写真で視覚で分かるようにしている。	子どもの手が届く場所で危険箇所はないか全指動員で定期的に見直しを行い、事故防止に繋げていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		・毎日掃除と消毒をしている。 ・空気清浄機や加湿器を使用している。 ・毎日清掃を行い、危険等がないかチェックしている。 ・療育室には会に集中できるよう目立つものを置かないようにしている。	現状を維持していき利用者が心地よく過ごせる空間を作っていく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	1	・発熱時には静養室で個別に休めるようにしている。 ・状況に応じて空いている部屋を利用できるようにしている。	必要に応じて早急に対応できるよう日常的に環境の点検を行っていく。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8			現状を維持していく。 日々療育後振り返りをしながら支援の向上に努めている。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		・アンケートを集計して、頂いた意見に対応している。	避難訓練は個人に向けミニお便りを作り配布し近況を伝えていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	1	・都度、仕事の中で気付いた点があれば伝えている。 ・療育後にチームで話し合っている。	現状を維持していきながら改善に努めていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	2	・月に数回 S T、O T、P T が療育に参加している。	第三者評価は行ってないが外部からの意見があった場合は検討し改善できることは行いたい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		・ケース会議で講義や研修報告をしている。 ・さまざまな研修に参加する機会を設けている。	法人内では毎月のケース会議や講演、法人外では研修に参加し資質の向上を図っている。また職員間で研修報告をし共有している。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8			支援プログラムは作成している。年度内にホームページにて公表する予定である。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8		・定期的に見直しをしている。	保護者と面談をし、保護者のニーズや職員の話し合い、療育士の助言など多方面にて分析したうえで支援計画を作成している。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	1		ケース会議や日々の振り返りの中で職員で話し合い共通理解したものを考慮した支援が盛り込まれている。計画の原案を皆で再確認し最善を尽くしている。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		・毎日の記録ファイルには支援計画も入っていて、毎日確認してから療育を行っている。 ・その日記録する児の目標を確認して療育に入っている。	毎朝利用者の支援計画の確認及び共通理解を図り支援をしている。また振り返りをして次の療育に生かしている。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8			作業療法士や理学療法士、言語聴覚士の観察助言をもとに状況を把握しながら支援に繋げている。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	1		支援計画に盛り込まれている。職員は日々支援を行う前に熟知して療育をしている。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8			保育士、療法士等各分野の意見を取り入れながら立案している。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		・サーキットの活動内容はステップアップをしたり、3ヶ月毎にプログラムを変えている。	作業療法士や保育士の意見を取り入れ利用児が楽しめる内容とし固定しないよう工夫している。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8			集団活動、個別活動それぞれに目的を持って計画を作成し、支援をしている。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		・朝礼を行っている。 ・朝礼で注意事項や活動内容の確認を行っている。 ・朝礼にてその日に関わる子の支援について話すようにしている。	振り返り話し合いをする機会もつくり意見を言い合える環境である。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8		・児への対応の仕方を振り返り、次の支援に繋げていく。 ・毎日の記録を書いて振り返りながら話している。	共有している。記録にも残しているので読み返し支援に繋げている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		・記録を書く前に全員で情報を出し合っている。 ・記録は偏らないよう指導員が交替で書いている。	現状を維持していく。 専門家の意見を取り入れ支援の改善に努めている。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	2		保護者の面談が行われる前に指導員とも話し合いをし、面談後も話を共有して見直し、計画を立てている。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
関係機関や保護者との連携	24 障害児相談支援事業所のサービ担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	1	・保護者、保育園関係者、機関の担当者も交えて行っている。	担当者会には当事業所の児童発達支援管理者が相談支援員、保護者、保育園関係者等が会議に参画している。
	25 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	1	・いわみ小児科が嘱託医で内科検診に来ている。健康保険課と連携をとっている。 ・健康診断は行っている。	
	26 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8			担当者会議の中で保育園、幼稚園等との情報交換で共有、相互理解できている。
	27 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	1	・先生が見学に来られたり、引き継ぎの話し合いの場を設けたりしている。 ・関係者と担当者会議を行い共有している。	当児発管が担当者会議に参加し情報共有している。
	28 (28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	7	1		地域基幹センターが主催で行っている連絡協議会に参加している。同法人は他にも支援センターがあるので交流、研修を行っている。心理士のアドバイスもケース会議等で受け取り入れている。
	29 質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	8		S T、O T、P T が月に数回訪問し観察に助言をもらっている。	毎月、専門家の観察、アドバイスを受けている。いろんな角度から視点を持つことができ資質向上に役立っている。必要な研修に参加している。
	30 (自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	7	1		施設長、児発管が参加している。職員も参加できるようにしたい。
	31 (31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	5	3		事業所のまつりで交流ができる。併行利用なので保育所やこども園、幼稚園等との交流になっている。
	33 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8			児発管が主に保護者と連絡を取り状況や課題の共通理解を持っている。送迎時などに職員も共通理解を持っている。
34 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	1	・H P より希望があれば個人で問い合わせ、参加出来るようになっている。	案内を出し希望があれば受け付けている。また見学や面談など保護者の都合に合わせて迅速に対応している。	
保護者への説明等	35 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		・契約時に説明している。	契約時にわかりやすく丁寧に説明している。運営規定は見るところに提示している。
	36 児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8			保護者の意向を確認しながら相談支援専門員と連携している。
	37 「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8		・契約時、見直し時にも確認して頂いている。	説明時には子どもの状況を伝えながらよりわかりやすく説明している。
	38 定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		・保護者からの相談には適宜、対応している。 ・要望があった場合、児発管が対応している。	保護者からの申し出には迅速に対応している。
	39 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7	1	・そば打ち体験やはくはくgooddayを行っている。	これからも保護者や家族で交流する場を設けていく。
	40 こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		・はこ・相談室という窓口を設けている。	毎月のお便りにて知らせている。相談や面談の希望があると迅速に対応している。
	41 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8		・毎月のおたよりとミニアルバムを作って配っている。 ・毎月園だよりを発行している。 ・月に一度のおたより、不定期に個人おたよりを出している。	紙媒体での発信だがIT機器を使うことも考えていきたい。連絡はメールや電話にて情報共有している。
	42 個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		・シレッダーにかけたり、お便りの取り扱いにも配慮している。 ・個人情報の書類、データなどは職場外に持ち出さないよう徹底している。	より厳重に取り扱っていく。
	43 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8			わかり易く丁寧に説明したり、伝達事項は電話のみならずメールに残しわかりやすいものにする。
	44 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	2	・今年はない。 ・年に一度交流会を開催している。	交流の場を設けられるよう検討していく。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8		それぞれのマニュアルを策定し訓練もしている。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	・毎月さまざまな状況での場面を想定して避難訓練を行っている。 ・月に一度災害訓練、AED研修を年に一度行っている。	年に1度AED研修をしている。地元消防署と連携して誤飲などの事故への対応等の訓練も検討したい。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8		契約時に確認を取って記録し、てんかん発作等ある場合には職員にわかるよう掲示している。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8		食物アレルギーのある児について、医師の指示所がある場合は保護者に確認を取って対処していく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		安全面に十分考慮し支援している。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8		契約時に周知、連携を取っているがより丁寧なわかりやすくなるよう検討、見直しをしていく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	・大きな事故に繋がらないよう小さい事案のうちに報告し危険確認を共有している。 ・怪我等があった場合もヒヤリハットに詳細を書き、職員で共有して見ている。	個々の特性を踏まえ、過去のヒヤリハット事例を確認し危険予測することができるよう全指動員で共有していく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	・研修に参加した職員が会議等の場で皆に報告している。 ・社外研修に参加し、内容をケース会議にて情報共有をしている。	虐待の早期発見、早期対応に努める。 事業所内研修を充実させる。社内の風通しをよくし発言しやすい環境を整えていく。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8		年度初めやケース会議において理解したうえで支援に携わっている。支援計画書にも保護者に説明し了解を得ている。	